

# 2018年3月期決算説明会 (プレゼンテーション資料)



2018年5月16日  
株式会社 東海理化

# ◆2018年3月期 決算のポイント

## 1. 売上成長(過去最高)

- ・ トヨタ以外への拡販努力の成果、台数増

## 2. 営業利益微増

- ・ 北米収益の落ち込みをタイ・中国でカバー
- ・ 例年以上のグローバル原価改善を実施

## 3. 当期純利益(過去最高)

- ・ 大きな特別損失なし（リコール、独禁法）

2018/3月期

連結業績

(前期比較)

〔 単位：億円  
( ) 内は利益率 〕

	18/3期	17/3期	増減額	【内訳】		'18/3期 第3四半期 公表値
				為替影響	実質増減	
売上高	☆ 4,819	4,590	+229	+113	+116	4,800
営業利益 (営業利益率)	308 (6.4%)	305 (6.6%)	+3	+21	▲18	310
経常利益 (経常利益率)	322 (6.7%)	321 (7.0%)	+1	+21	▲20	320
特別損失	▲22	▲229	+207	-	-	0
親会社株主に帰属する 当期純利益 (純利益率)	☆ 220 (4.6%)	▲43 (▲0.9%)	+263	-	-	210
USDレート	110円	108円	+2円	-	-	110円
EURレート	128円	119円	+9円	-	-	128円
トヨタ生産台数 (上段：国内、下段：海外)	319万台 572万台	319万台 590万台	- ▲18万台	-	-	320万台 569万台

☆：過去最高

# 特別損失の内訳

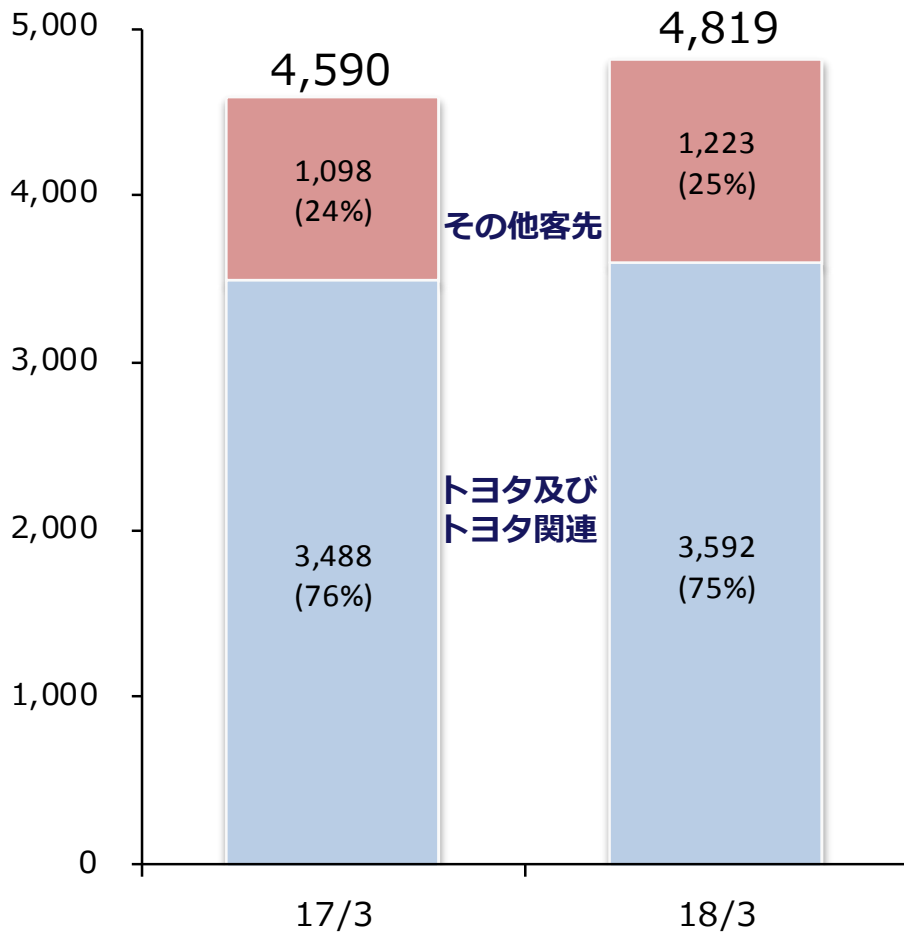
	18/3期	17/3期
品質関連費用	—	104億円
独禁法関連費用	22億円	120億円
その他	—	5億円
合計	22億円	229億円

# 独禁法関連対応の進捗状況

	当局	民事	主要客先
日本	—	—	完
北米	完	○ 18/3期 和解により不足 分22億円の追加計上	
欧州	完	—	

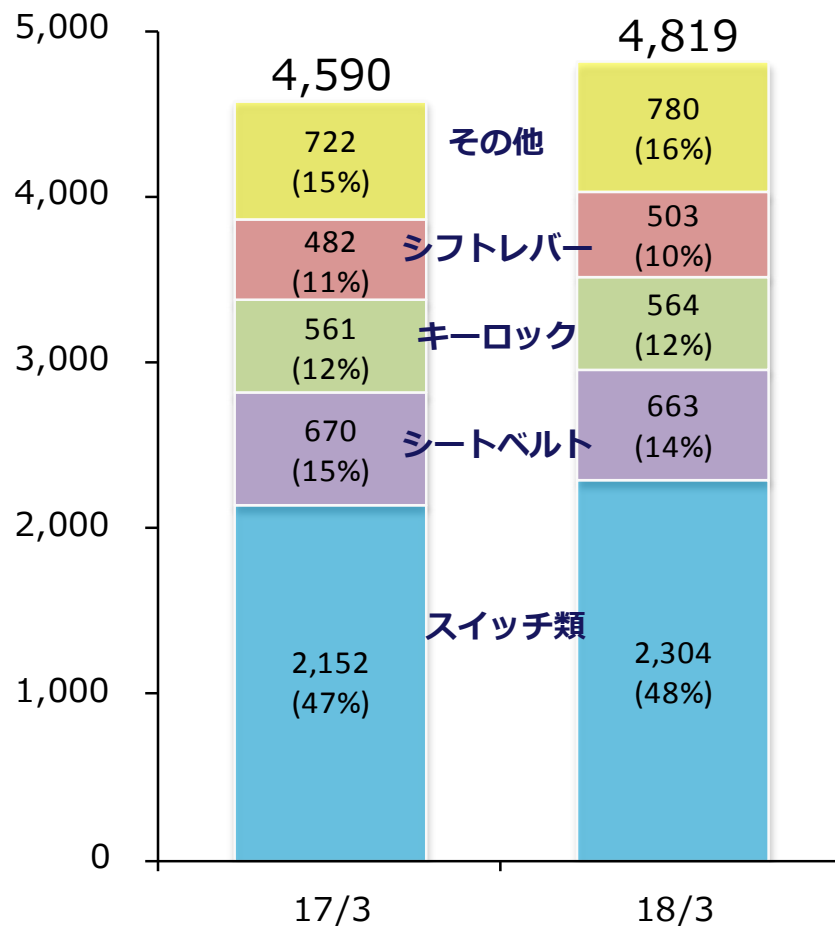
# 2018/3月期 連結売上高比率（前期比較）

## トヨタ比率



## 製品別

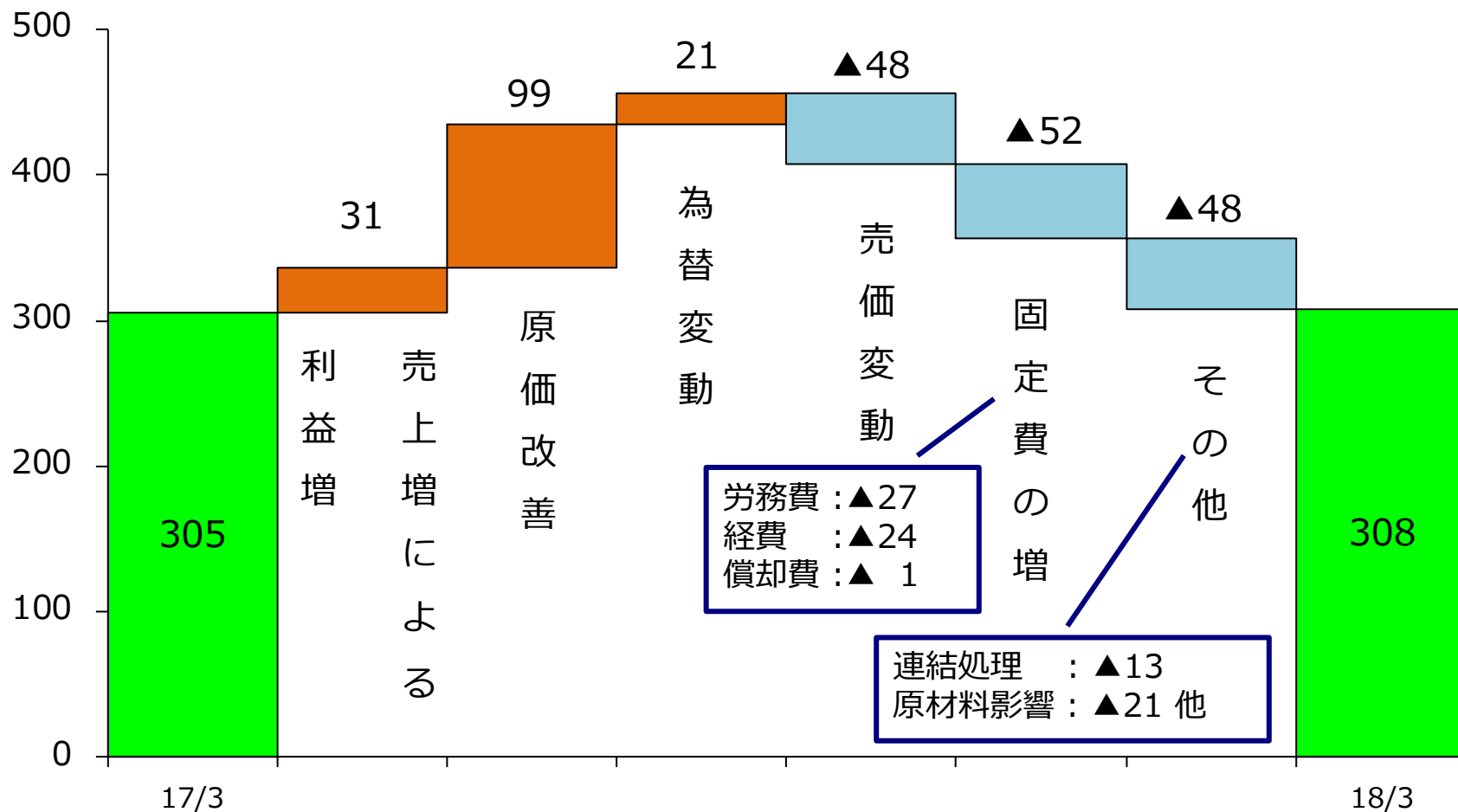
〔 単位：億円  
( ) 内は売上比率 〕



# 2018/3月期 営業利益増減要因 (前期比較)

2018/3月期 (対前期) : 3億円増益

(単位：億円)



# 2018/3月期 地域別業績（前期比較）

〔 単位：億円  
（）内は利益率 〕

		18/3期	17/3期	増減額	【内訳】	
					為替影響	実質増減
日本	売上高	2,806	2,653	+153	+14	+139
	営業利益(率)	107 (3.8%)	95 (3.6%)	+12	+11	+1
北米	売上高	1,061	1,103	▲42	+30	▲72
	営業利益(率)	37 (3.6%)	70 (6.4%)	▲33	+1	▲34
アジア	売上高	1,274	1,123	+151	+64	+87
	営業利益(率)	149 (11.8%)	116 (10.4%)	+33	+8	+25
欧州・南米	売上高	321	281	+40	+31	+9
	営業利益(率)	16 (5.2%)	16 (5.9%)	0	+1	▲1
連結調整	売上高	▲643	▲571	▲72	-	-
	営業利益	▲2	6	▲8	-	-
計	売上高	4,819	4,590	+229	+113	+116
	営業利益(率)	308 (6.4%)	305 (6.6%)	+3	+21	▲18



# 2019/3月期 連結業績予想（前期比較）

〔 単位：億円  
（）内は利益率 〕

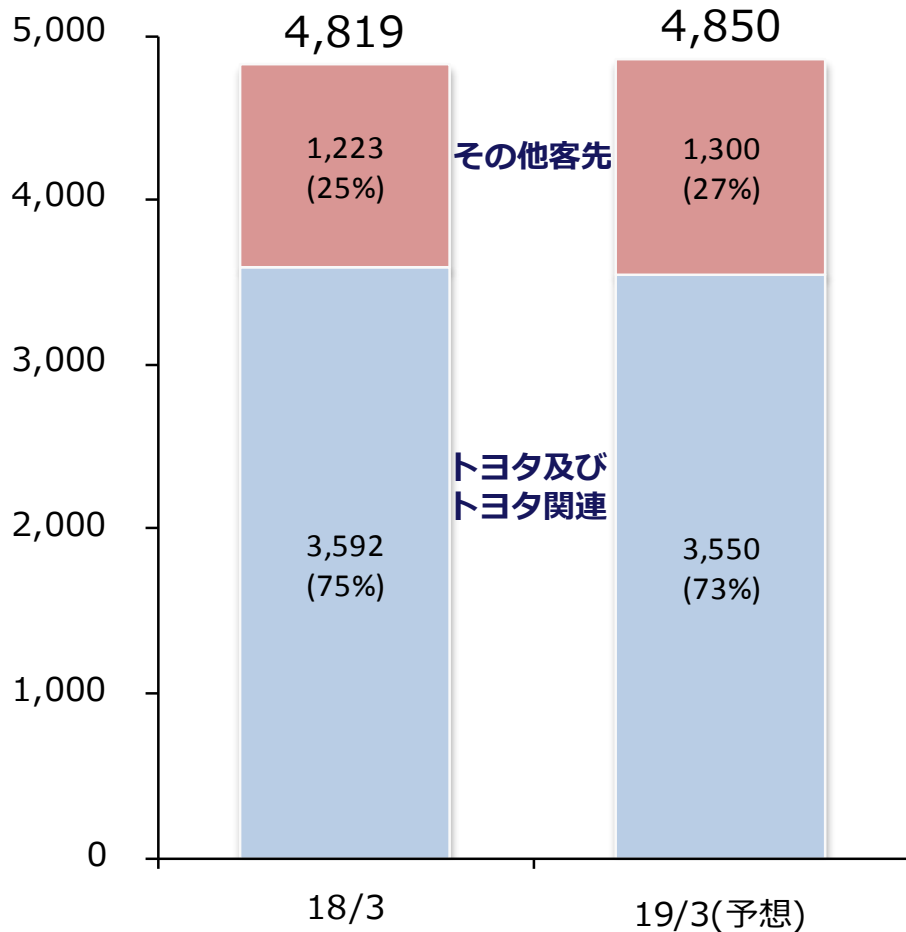
	19/3期 予想	18/3期 実績	増減額	【内訳】	
				為替影響	実質増減
売上高	☆ 4,850	4,819	+31	▲70	+101
営業利益 (営業利益率)	280 (5.8%)	308 (6.4%)	▲28	▲20	▲8
経常利益 (経常利益率)	290 (6.0%)	322 (6.7%)	▲32	▲20	▲12
特別損失	—	▲22	+22	—	—
親会社株主に帰属する 当期純利益 (純利益率)	200 (4.1%)	220 (4.6%)	▲20	—	—
USDレート	105円	110円	▲5円	—	—
EURレート	130円	128円	+2円	—	—
トヨタ生産台数 (上段：国内、下段：海外)	313万台 572万台	319万台 572万台	▲6万台 —	—	—

☆：過去最高

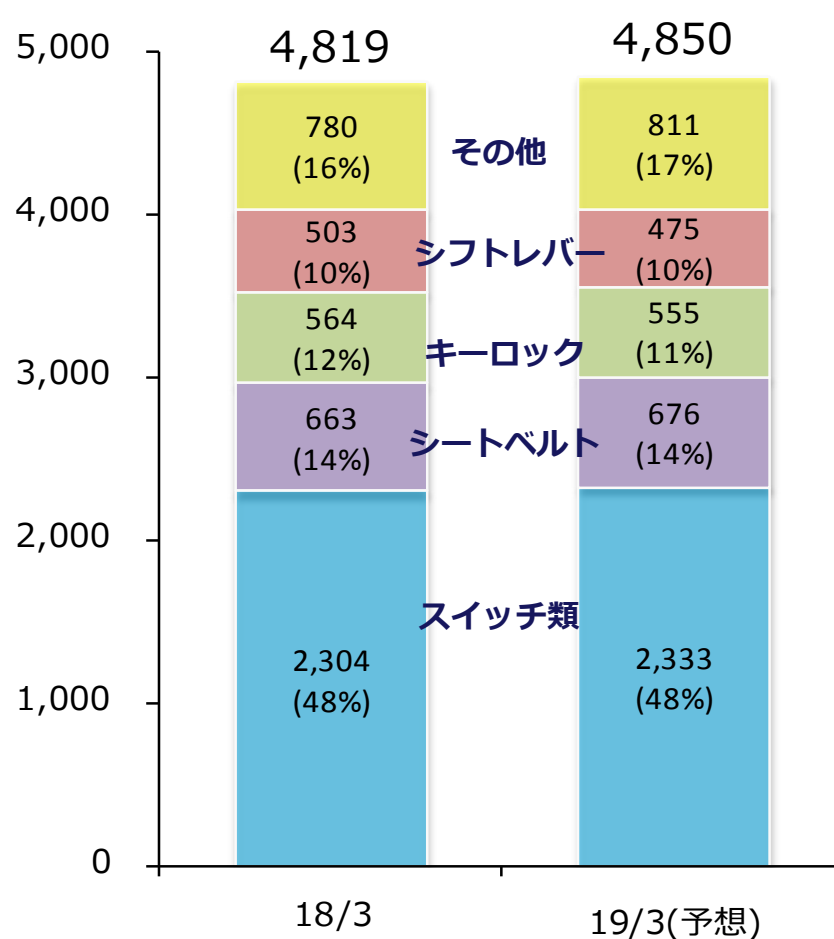
# 2019/3月期 連結売上高比率（前期比較）

〔 単位：億円  
（）内は売上比率 〕

## トヨタ比率



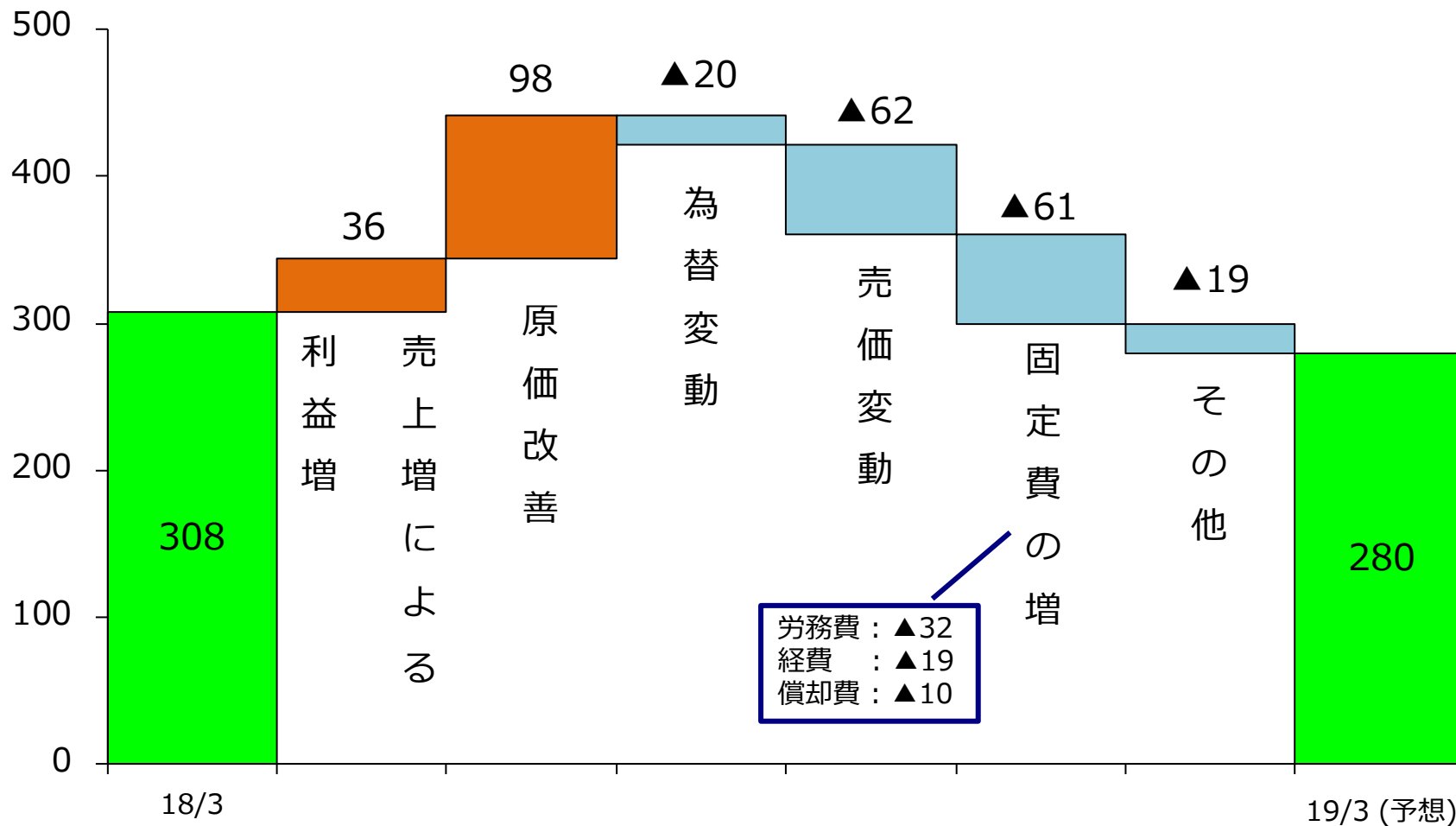
## 製品別



# 2019/3月期 営業利益増減要因 (前期比較)

2019/3月期 (対前期) : 28億円減益

(単位: 億円)

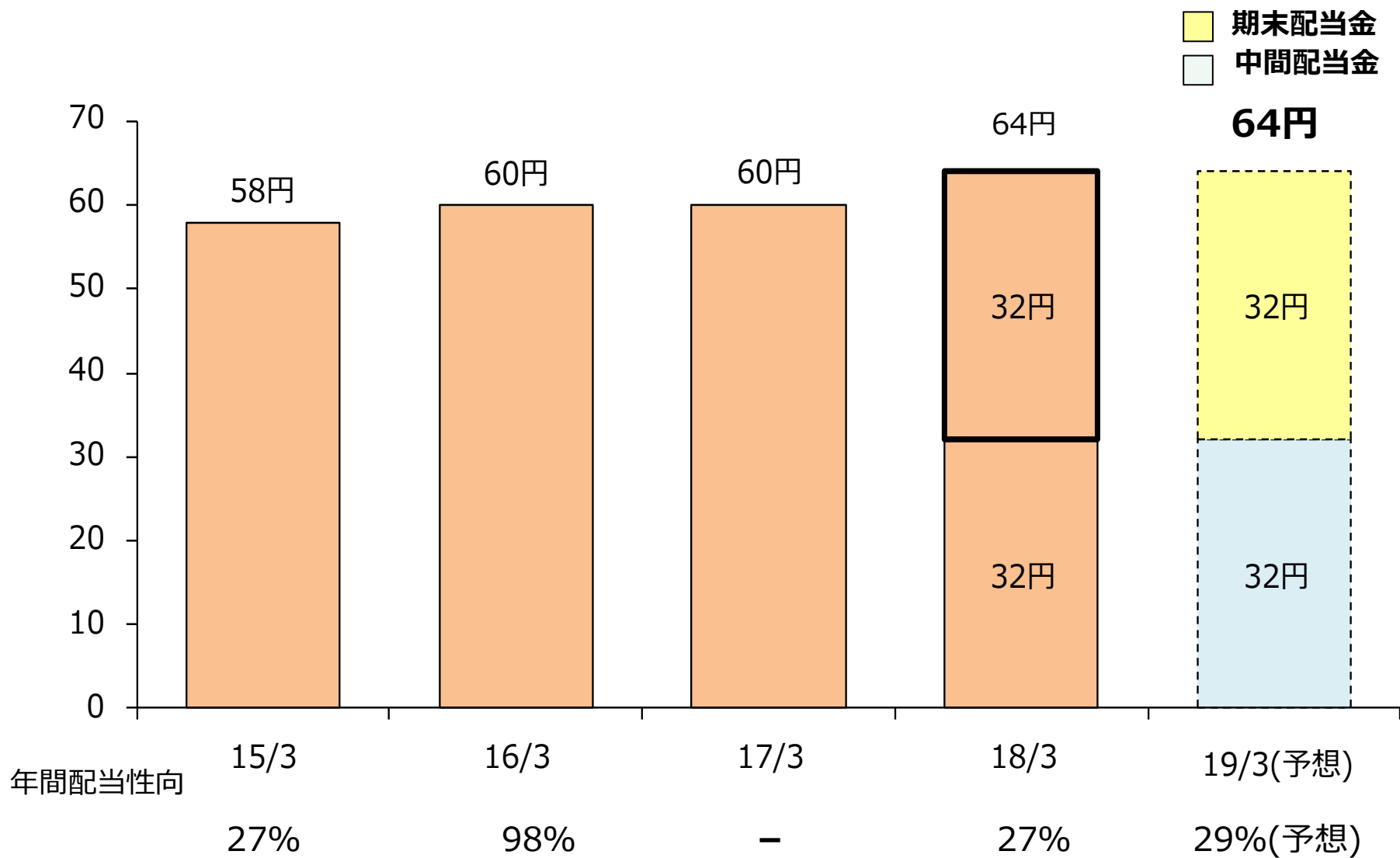


# 2019/3月期 地域別業績予想（前期比較）

単位：億円  
 () 内は利益率

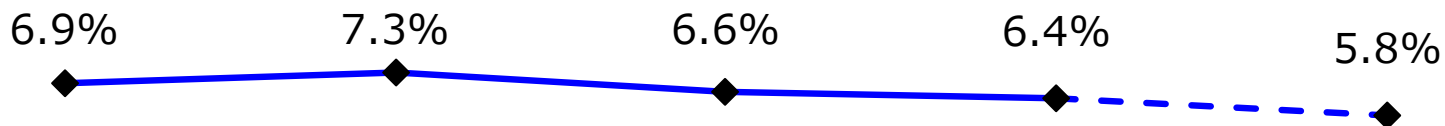
		19/3期 予想	18/3期 実績	増減額	【内訳】	
					為替影響	実質増減
日本	売上高	2,865	2,806	+59	▲14	+73
	営業利益(率)	95 (3.3%)	107 (3.8%)	▲12	▲13	+1
北米	売上高	995	1,061	▲66	▲52	▲14
	営業利益(率)	15 (1.5%)	37 (3.6%)	▲22	▲5	▲17
アジア	売上高	1,315	1,274	+41	▲25	+66
	営業利益(率)	152 (11.6%)	149 (11.8%)	+3	▲1	+4
欧州・ 南米	売上高	327	321	+6	0	+6
	営業利益(率)	18 (5.5%)	16 (5.2%)	+2	0	+2
連結調整	売上高	▲652	▲643	▲9	21	▲30
	営業利益	0	▲2	+2	0	+2
計	売上高	4,850	4,819	+31	▲70	+101
	営業利益(率)	280 (5.8%)	308 (6.4%)	▲28	▲20	▲8

# 配当(案)

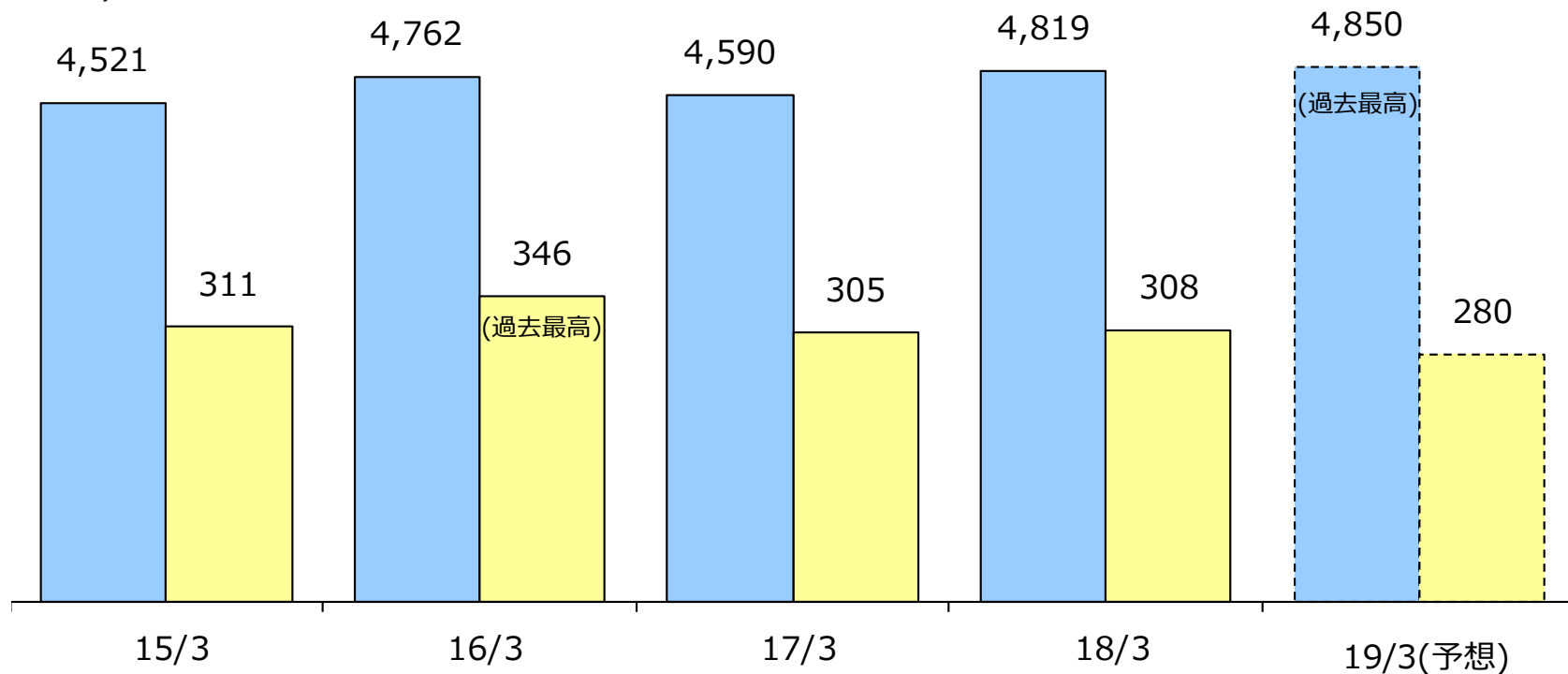


# 業績の推移 (連結)

## 売上高営業利益率



(単位：億円)



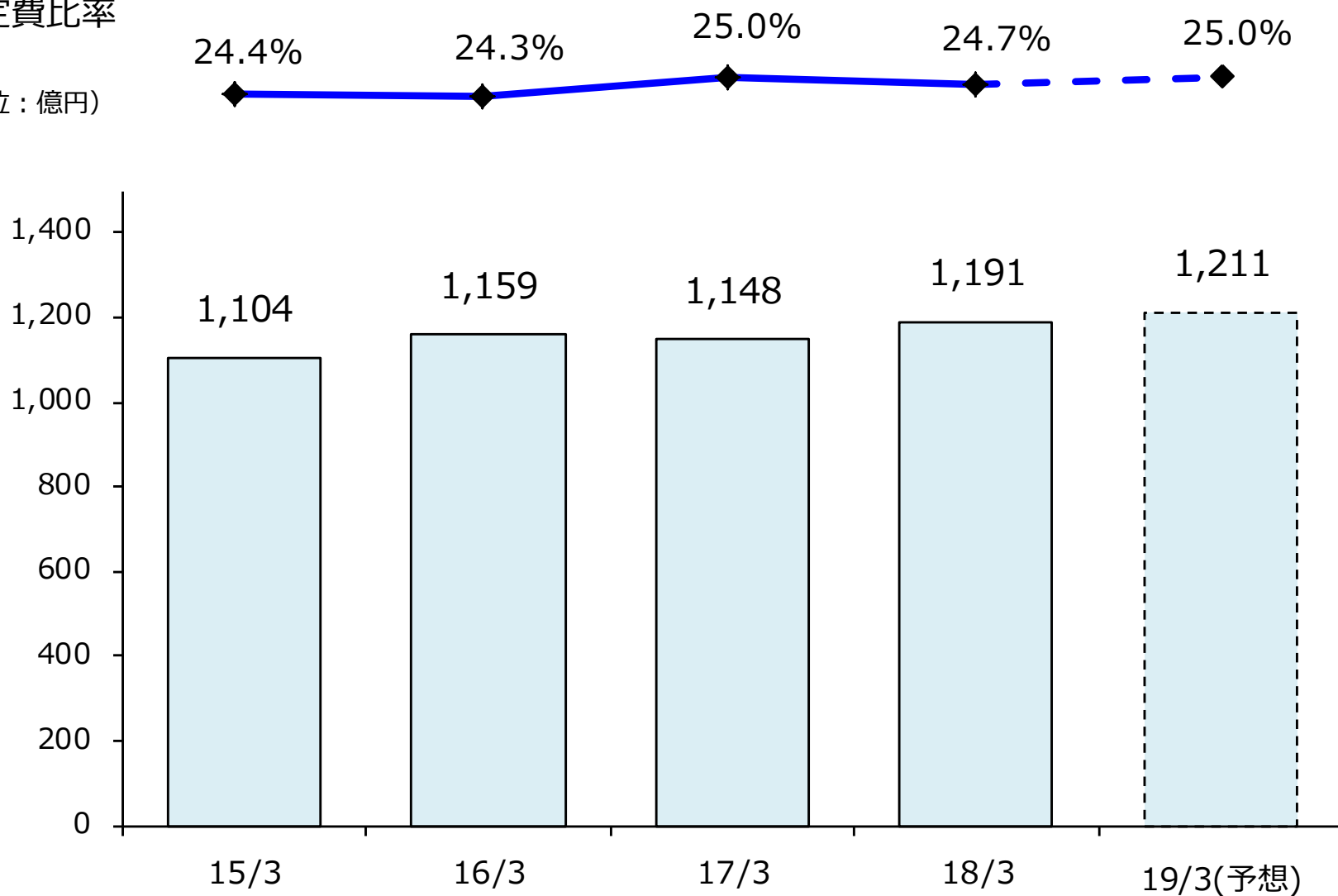
## 為替レート(年間平均)

	15/3	16/3	17/3	18/3	19/3(予想)
USD	109	120	108	110	105
EUR	138	132	119	128	130

# 固定費

連結売上高  
固定費比率

(単位：億円)



# 設備投資と減価償却費

連結売上高  
設備投資比率

5.3%

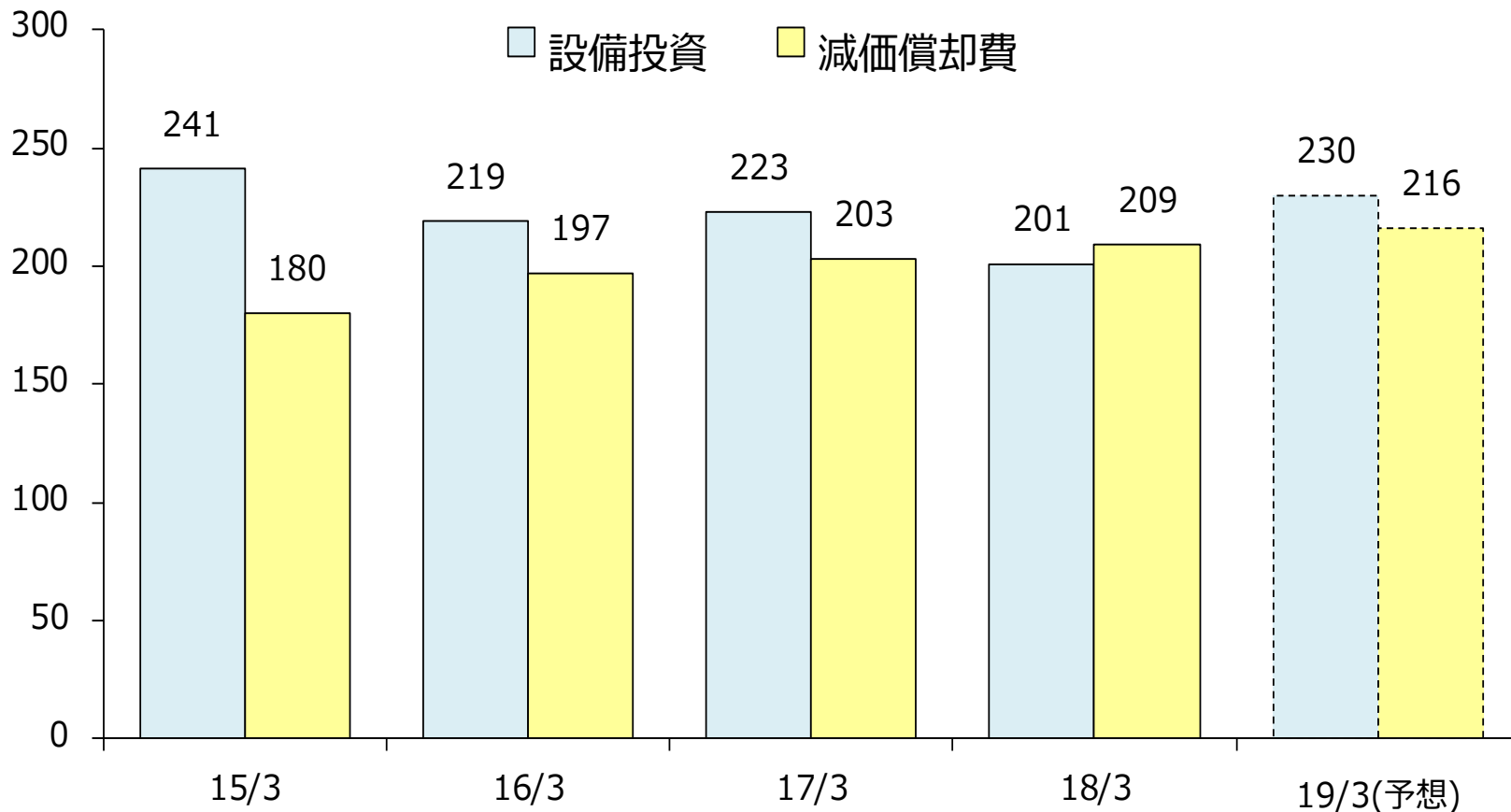
4.6%

4.9%

4.2%

4.7%

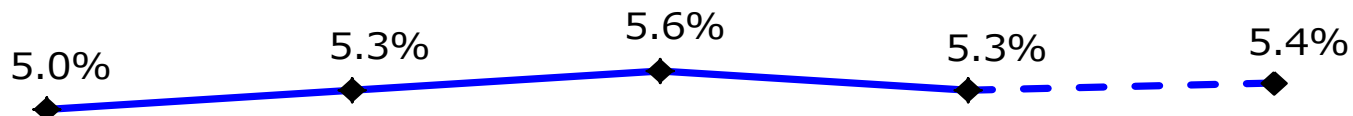
(単位：億円)



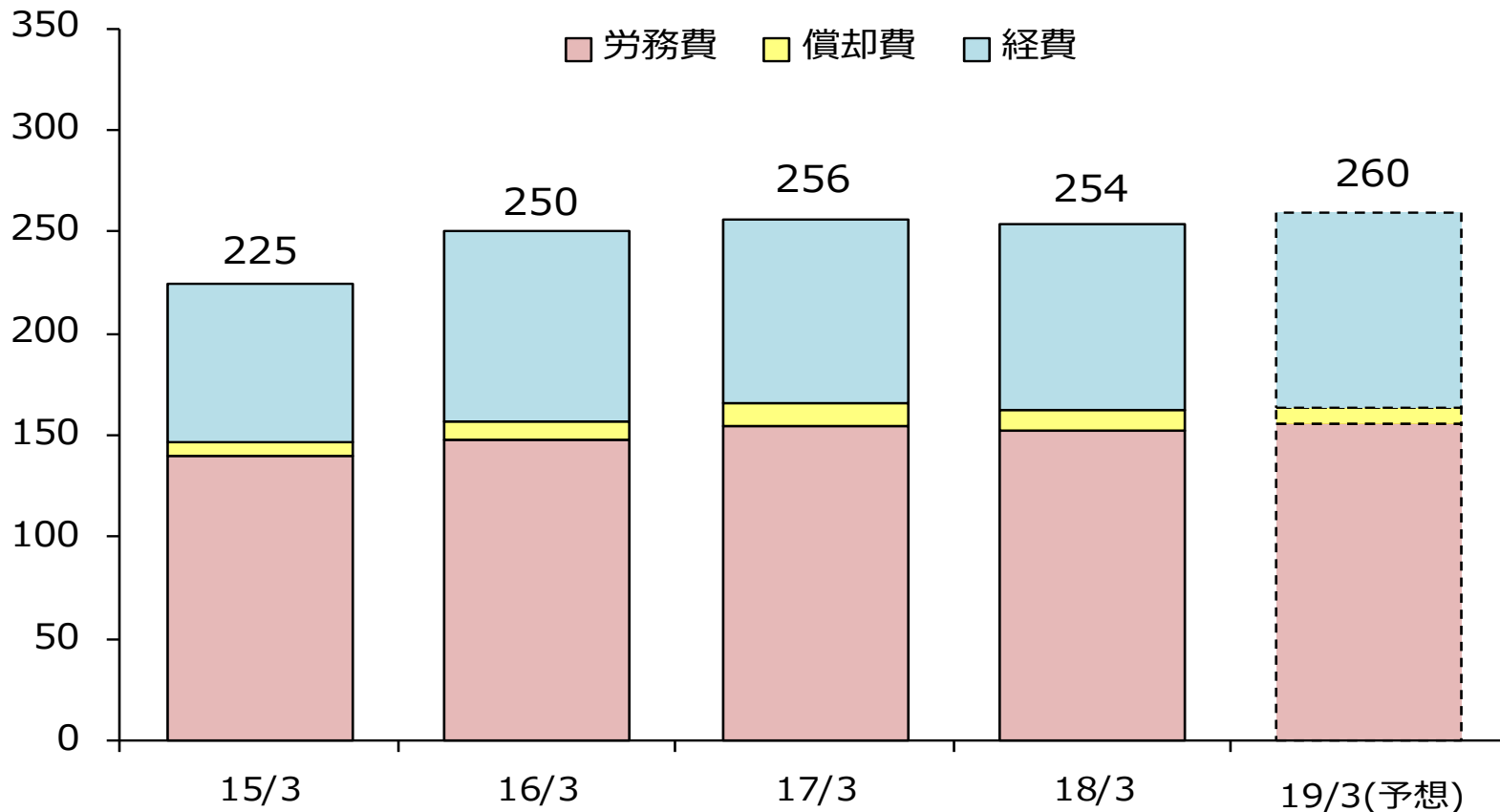


# 研究開発費

連結売上高  
研究開発費比率



(単位：億円)



# ◆ 将来の成長に向けて

1. グローバル展開・拡販

2. 製品進化の方向性「電子化」

# ■グローバル展開・拡販

---

# グローバルでの事業展開

## 地域別の業績予想・今後の取組み

	18/3期 売上高実績 (営業利益率)	19/3期 売上高予想 (利益率)	将来市場 予想	各地域での取組み
日本	2,806 (3.8%) →	2,865 (3.3%)	→	市場成熟⇒ <b>固定費管理</b> による収益維持活動の継続
北米	1,061 (3.6%) ↓	995 (1.5%)	→	<b>18年は正念場(売上減)</b> <b>将来は客先現地生産拡大見込み、および新たな拡販を継続</b> ・メキシコ生産増等により対応
アジア	1,274 (11.8%) →	1,315 (11.6%)	→	<b>高収益率の維持・拡大に向け、市場の高い成長率に合わせて、生産能力の拡張を図る</b> ・インドースズキの成長に合わせて工場拡張を実施 (TRMN)
その他 欧州南米	321 (5.2%) →	327 (5.5%)		

注:売上高額は調整額を除く

# 拡販活動

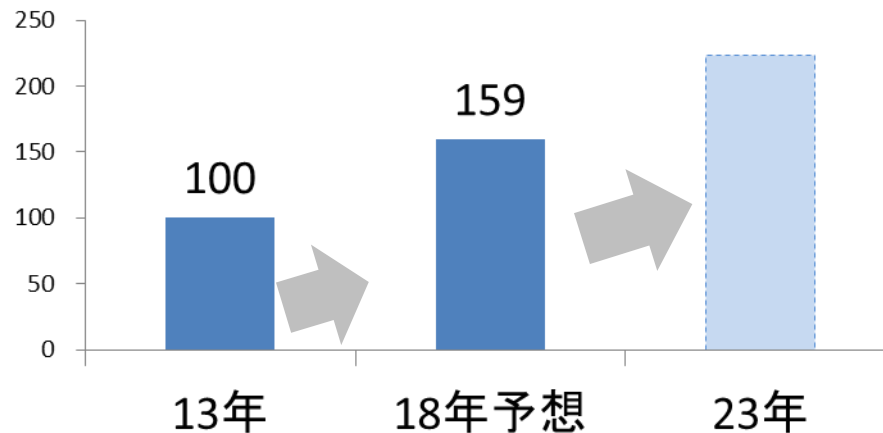
## トヨタ以外のお客様への拡販活動

◆着実に拡販を実施中

トヨタ以外の 売上比率	16年	17年実績	18年予想
	24%	25%	27%

◆主要なお客様への拡販活動の実績・予想  
(スズキ・スバル・FORD3社売上)

13年 = 100とする



◆ホンダ：新規受注獲得

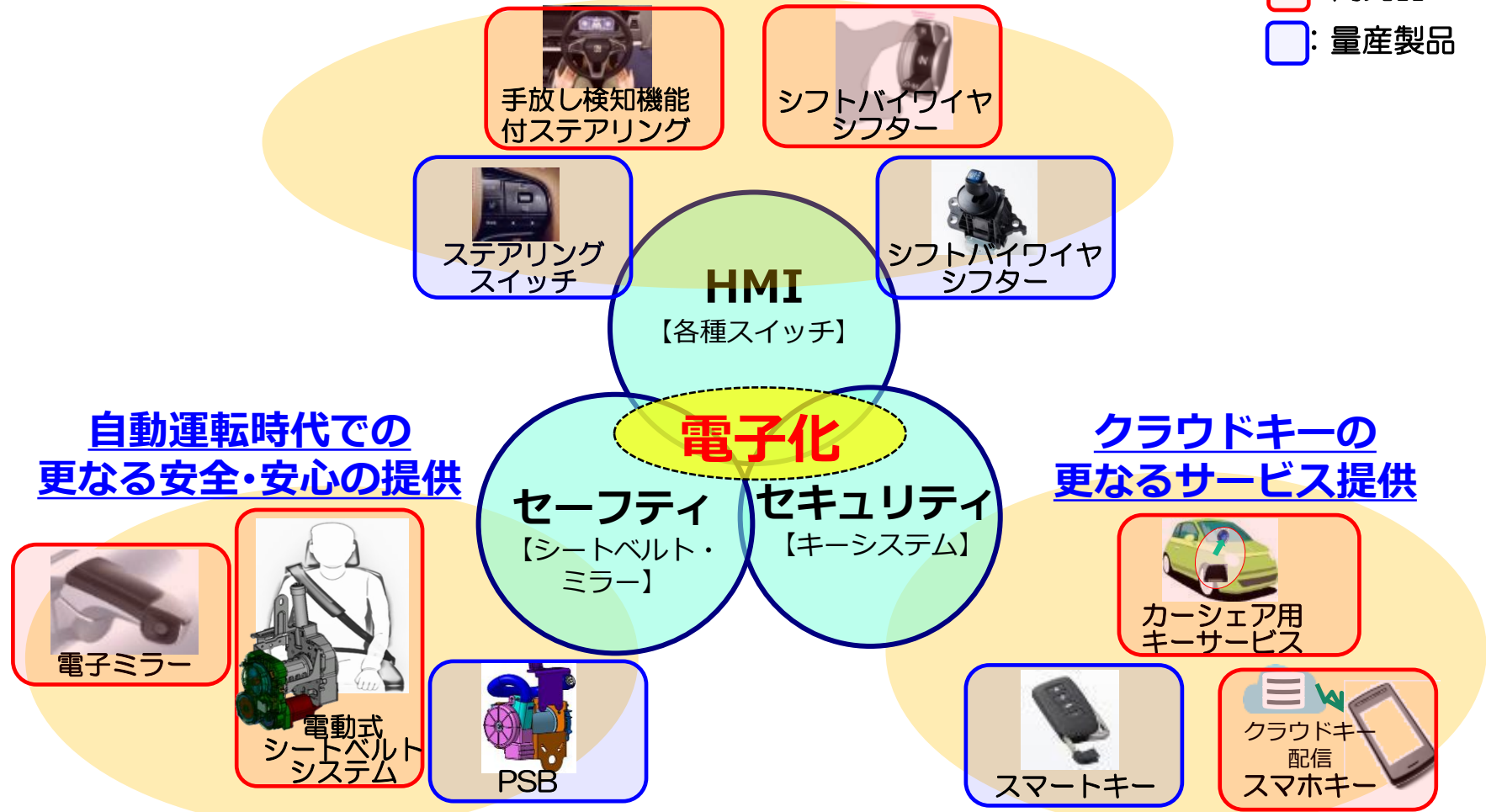
# ■ 製品進化の方向性「電子化」

---

# 製品進化の方向性 「電子化」

## 人とクルマのコミュニケーションの進化


□: 開発品  
□: 量産製品





市場変化に対し、各製品の電子化により機能・付加価値を向上

# 製品の電子化①【スイッチ】


: 通信機能をもった製品


: 通信機能に加え、制御機能をもった製品


プッシュスタート  
スイッチ 

コンビスイッチ  
アングルセンサ 

モジュール  
スイッチ 


エアコン  
スイッチ 

ステアリング  
スイッチ 

パワーウインド  
スイッチ 

シフトバイワイヤ  
シフター 

タッチパッド 

ストップランプ  
スイッチ 



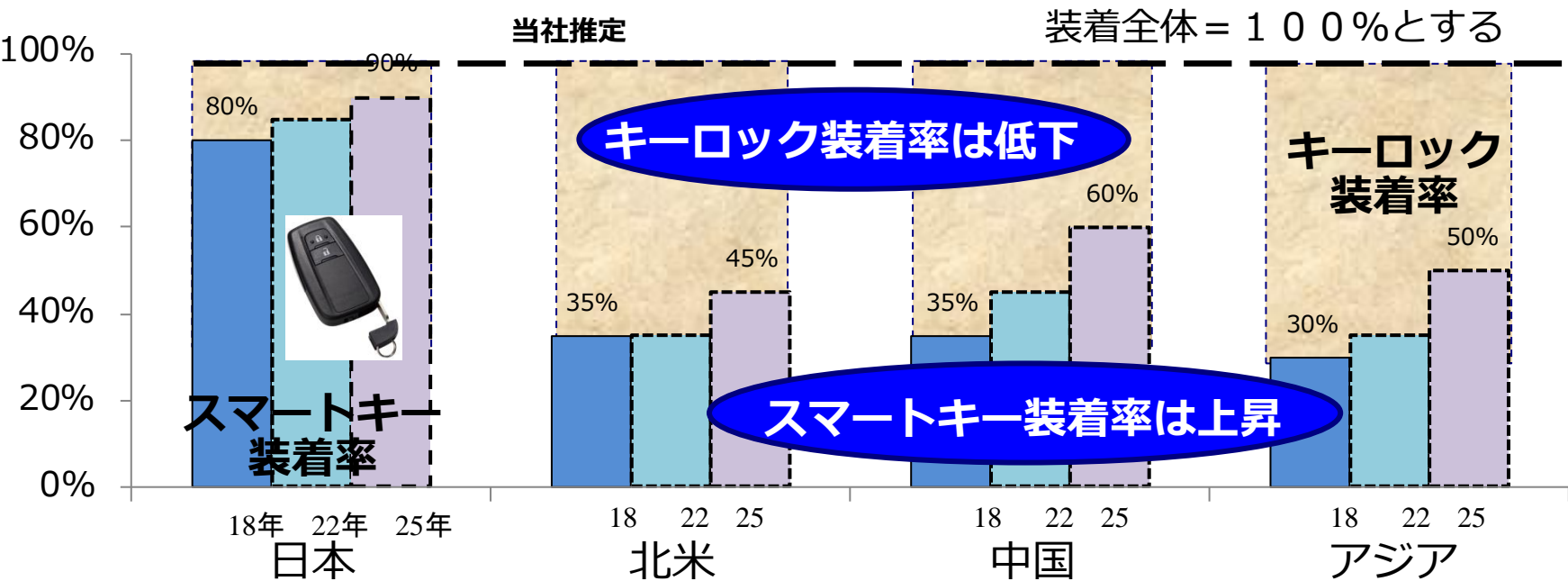
電子基板をもった各種スイッチを拡大



# 製品の電子化②【スマートシステム】

今後もキーロック⇒スマートシステムへの移行が進む

## 【スマート装着比率予想】



- ・スマートへの移行により付加価値（利益）は上昇
- ・今後、中国、アジアで拡大見込み

注：当社決算の製品セグメント上、スマートはスイッチに入る

# 製品の電子化③ 【シートベルト】

①スバル、ダイハツ等に拡販中  
⇒18年以降量拡大見込み

量の拡大

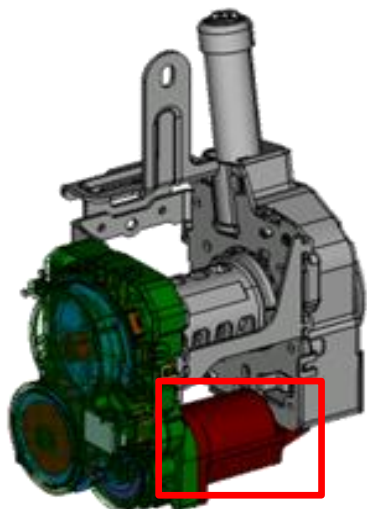
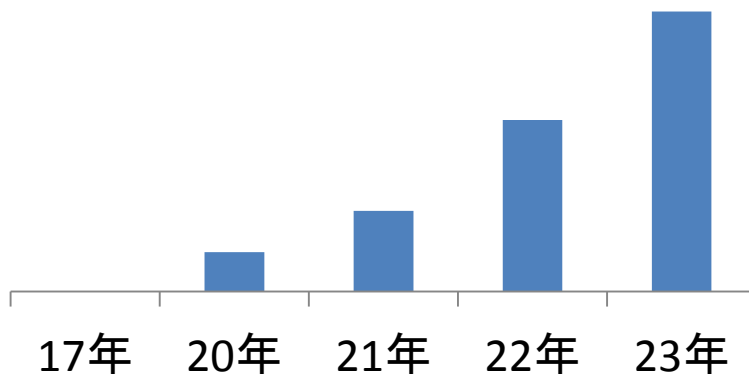
②プリクラッシュシートベルト  
\*PSBの搭載拡大  
\*PSB = カメラ等の予防安全センサによる衝突前でのシートベルト巻取りが可能

製品の電子化、電動化

PSB数量の予想

(個/年)

(弊社推定)



モータにてウエビングを駆動

予防安全センサ普及に伴い、装着率増加を予想  
- 2020年以降搭載拡大目指す

# 製品の電子化④

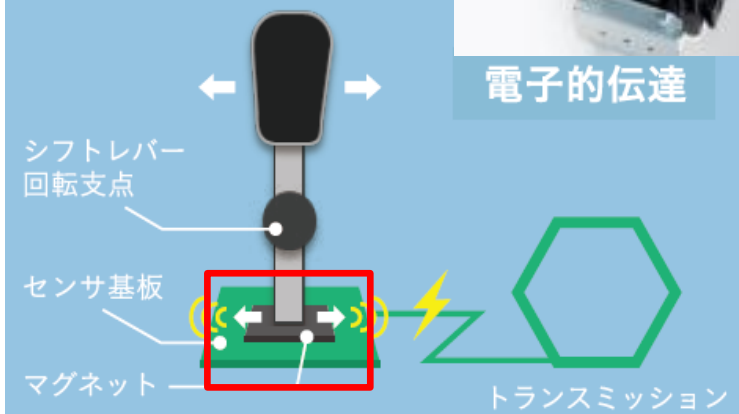
# 【シフトバイワイヤ】

## シフトレバーの電子化対応

## バイワイヤ装着率の拡大への対応

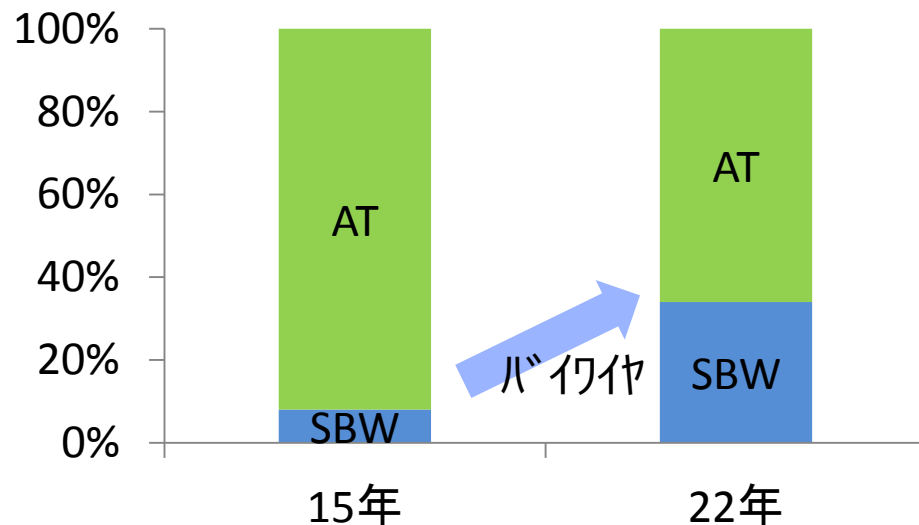
シフトバイワイヤ  
シフター

操作を電子化して伝達



シフトポジションを電気信号に変換し  
トランスミッションへ伝達

【装着比率の予想】(当社推定)



- 機電一体開発対応
- ECU取り込みで、付加価値UPを図る

## 当資料取り扱い上の注意点

当資料には将来見通しが含まれております。将来見通しは現在入手可能な情報から得られた当社の経営者の判断に基づいております。この将来見通しは仮定または仮定に基づく根拠が含まれており、環境によっては想定された事実や根拠は実際の結果とは異なる場合があります。当社または当社の経営者は将来の結果についての期待または確信を述べていますが、その期待や確信、あるいはそれに近い結果が実際に達成されるという保証はありません。また法令上、別途の定めがある場合を除き、当社はいかなる将来見通しも最新のものとする義務を負っておりません。